

県立高等学校改革喜多方市懇談会（第3回 12月26日（木）開催）の意見要旨

1 再編整備の見直しに関すること

- 現状を把握し地域全体の将来展望を、学校教育の中でどのように実現していくのが重要である。そのための議論をもう少し深める必要があると思う。
- 喜多方、喜多方東、耶麻農の市内3校でどうするかを考えるべき。また、その懇談の場があればよいと思う。
- 先日、山都町で懇談した際、地域振興の話が多く出された。過去に小学校や中学校が統合された際、学校がなくなった地域は加速度的に人口減少が進んだ。耶麻農の進路では、蕎麦屋から来てほしいとの要望がある。耶麻農は蕎麦や農業など地域と密着している。地域振興の観点から、学校があることは重要なことである。教育のこと地域のことを合わせて検討してほしい。
- 県が示した案は一般的なもので、引き付けられるものは無いと感じる。このまま統合が進んでいった場合、多くの中学生が魅力を感じる学校が作れるのか疑問を感じる。
- 学校の魅力化では、施設・設備や教科内容を充実させていくためには、スケールメリットが必要と思う。少人数できめ細かな指導ができることも大切だが、ある程度のスケールメリットも必要である。
- 今、統合計画が進んでいるそれぞれにおいて、魅力化として何か光るものが必要である。喜多方・喜多方東のコース制はこれまでの総合型高校と何も変わらない。これまでの喜多方地区の歴史を踏まえて、これぞというものが必要である。このままでは魅力を感じる人は少ないと思う。

2 県の進め方に関すること

- 統合は仕方ないことと思っているが、両校の永い歴史を踏まえ、これからのことを見据えて、魅力ある素晴らしい日本一の学校とするくらいの県教委の取組が必要である。
- 来年高校受験を控える保護者と話した際、耶麻農業高校と喜多方東高校は無くなると聞いたとのこと。保護者などは新聞記事で目にする程度の情報しかないとのことであった。市の懇談会は、懇談会での意見等の要旨がホームページで公開されて

いるが、県は懇談会資料が掲載されているだけである。県には議論の過程が県民にも分かるよう、意見要旨等の公開をお願いする。

- 県懇談会に出席して様々な問題提起をしたが、それに対する回答は一切ない。そのような状況から県教委の対応は真摯な対応ではないと感じている。
- この進め方には無理がある。新たに、喜多方、喜多方東、耶麻農業の3校でどのようにしていくかの発想もあると思うが時間がない。耶麻農・会津農林の統合計画の時期に合わせて、喜多方・喜多方東も議論するのであれば議論する時間があると思う。それであれば、西会津高校も踏まえた検討ができると思う。地域的な再編等を踏まえた形で、再編の検討を求めるような要望を県にできればよいと思うが、時間が無さ過ぎる。
- 次代を担う子どもたちのために、時間をかけて議論を深めていってほしい。

### 3 その他

- 将来、子どもたちが自分の力で生活していけるよう、小学校、中学校、高校の各段階での教育で必要とされるもの異なる。高校では、学力を身に着けることも大切だが、人間関係の構築や、色々な人とのコミュニケーションを図りながら将来を見据えていくことが大切である。
- 市内の小学校・中学校が高校までどのような教育目標をもって取り組んでいくのか、市としての県に対する要望とともに、議会としても具体的に考えを示してもらい、一体となって人材育成を行っていくことを望む。
- スケジュールありきの進め方に、意見を発言する気にもならなかった。
- 山都町内でも、各界や関係者の意見に行く場を持たなければならないとの意見がある。山都町内でも皆さんから意見を聞いて、熱が盛り上がれば県や市へ要望をしたいと考えている。
- 耶麻農が会津坂下町に移ってしまうことで、生徒の負担や町内がさびれてしまうことに対する不安の声が聞かれる。
- 耶麻農のライフコーディネーター科は廃止の計画だが、卒業生は市内の福祉施設などへ就職し頑張っている。県の懇談会で存続の要望をしたが、聞く耳を持たない感じである。

- 保護者たちの間では、喜多方東と耶麻農は無くなる。それならば会津若松市内の高校を目指そうかといった声がある。